

## I. 地域概況

今回、植物群落の動態に関する調査・研究の対象となり、永久方形区の植生調査が実施されたのは、関西電力株式会社の高浜原子力発電所敷地内である。

高浜原子力発電所は福井県大飯郡高浜町の音海半島に位置している。音海半島は、複雑な海岸線を形成している若狭湾地域のほぼ西端にあり、海拔 692 m の青葉山の北東端山足部から北に突出した半島を形成している。

若狭湾に面した一帯の気候条件は、夏季が比較的温暖であるのに対し、冬季には多くの積雪をみる裏日本型気候（日本海型の北陸気候区）に属している。対馬暖流の影響もあり、年平均気温が14℃に達するため臨海域ではヤブコウジースダジイ群集、イノデータブノキ群集など常緑広葉樹の自然林が生育している。しかし、冬季の積雪量が多いためにハイイヌツゲ、ヒメアオキ、ハイイヌガヤなど日本海側に限って分布する種群の生育がみられる。

音海半島および周辺地域の植生は、海拔 400 m 前後を上限とするヤブツバキクラス域 *C a m e r l l i e t e a j a p o n i c a e - G e b i e t* と海拔 400 m 前後以高のブナクラス域 *F a g e t e a c r e e n a t a e - G e b i e t* に大別できる。ヤブツバキクラス域は、自然植生および潜在自然植生としてイノデータブノキ群集、ヤブコウジースダジイ群集、ホソバカナワラビースダジイ群集など常緑広葉樹林が大部分の面積を占める植生域である。

しかし、ヤブツバキクラス域は温暖な沿海域および低海拔域であり、古くから多くの人々が定住していた。したがって、自然植生が社寺林、急傾斜地など特定のところを除いて人間の影響下に生育する二次林、二次草原、植林、裸地に変えられてしまっている。また、ブナクラス域は、ヒメアオキープナ群集、マルバマンサクープナ群集など夏緑広葉樹林域であり、現在でも青葉山、サザエ岳、三方ヶ岳などの山地の山頂付近に残存の自然植生がみられる。しかし、ブナクラス域でも下部ではスギ植林を中心に、コナラやミズナラの二次林で広く占められている。高浜原子力発電所構内（若狭高浜・田ノ浦地区）および音海半島の具体的な植生配分、すなわち現存植生図、植生自然度図および潜在自然植生図については本調査・研究の1978年度（昭和53年度）報告でまとめられている。

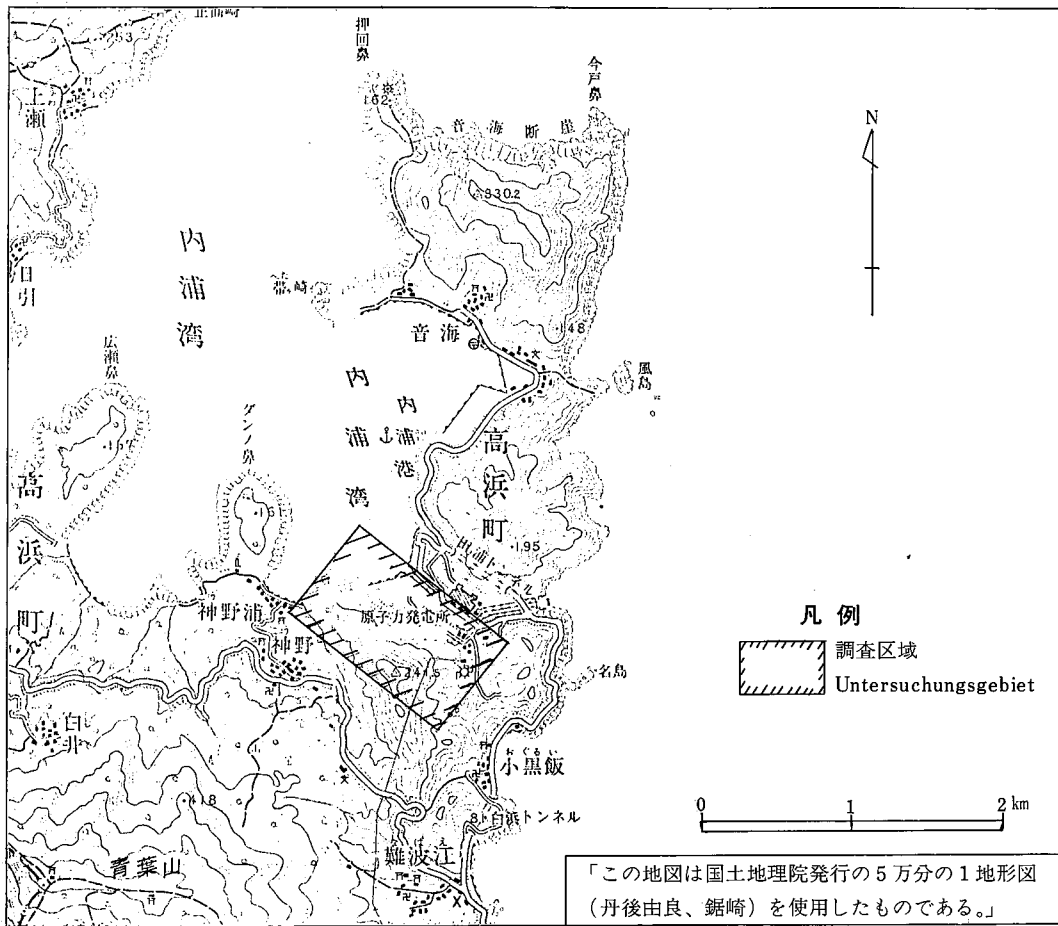


Fig. 1 調査区域および周辺地域  
Untersuchungsgebiet und seine Umgebung

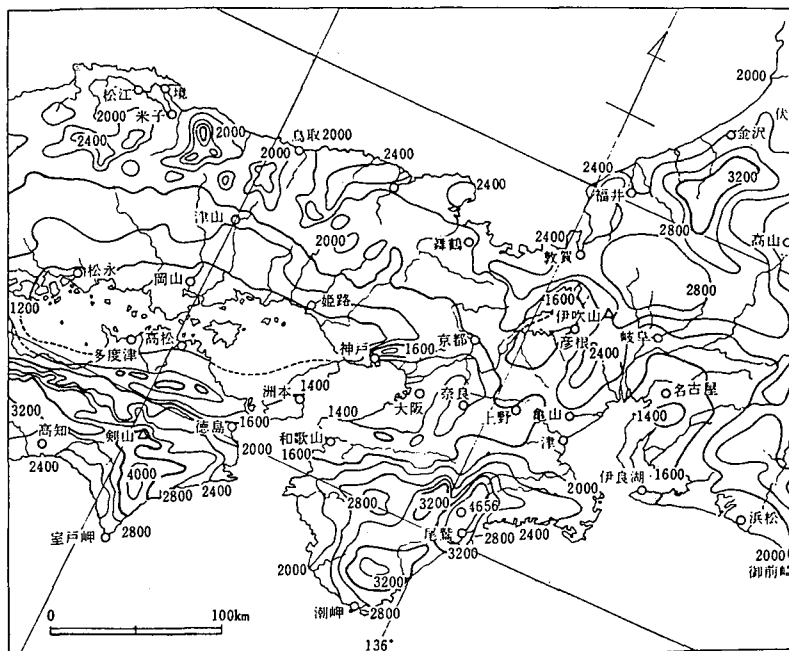


Fig. 2 年降水量分布図 (mm)  
 Verbreitungskarte der Jährlichen Niederschlagsmengen (mm)  
 (1941年~1970年の平均 Mittel von 1941 bis 1970)

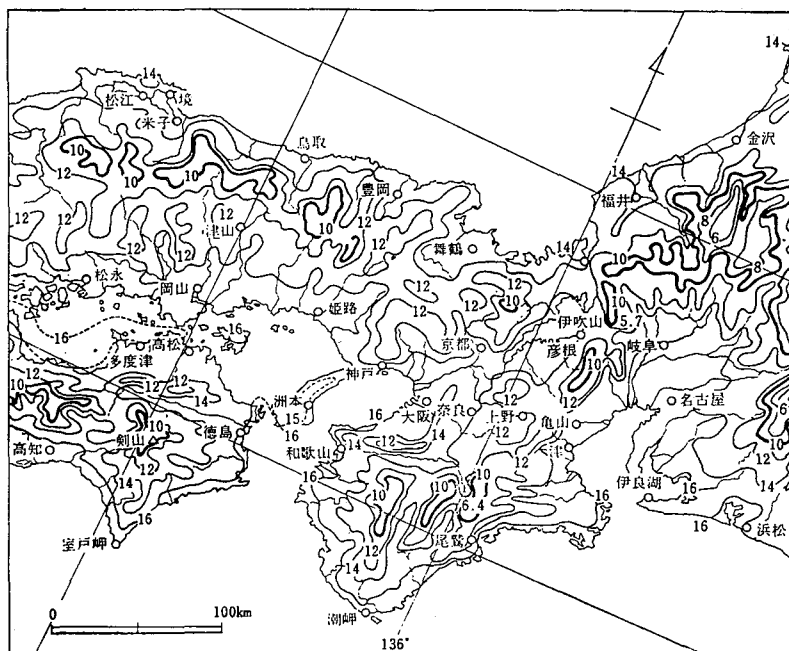


Fig. 3 年平均気温分布図 (°C)  
 Verbreitungskarte der Jahres-Isothermen  
 (1947年~1970年平均 Mittel von 1947 bis 1970)